

声

業界の



● 山梨県砂利協同組合

理事長 井上聰一郎氏

業界の現況は？

当業界は、県内に4つの協同組合を組織し、主に国や県が管轄する河川を中心に砂利を採取し、県内の公共・民間工事に必要な骨材を供給しています。中でも山梨県砂利協同組合は昭和37年発足と最も歴史が深く、富士川上流の釜無川を中心として、峡北、峡東、峡中そして郡内地区を含めた広範囲にわたる地区の運営を行っています。

河川砂利は骨材としての質が高く、特に高い強度を要求される公共工事などにはこの上ない骨材と言えますが、河川砂利の採取できる箇所は国内では非常に少なく、大変貴重なものです。その意味では山梨の骨材事情は他の県に比べて恵まれており、私どもの事業の有益性の特筆すべき一つです。

しかし、10年ほど前からの公共工事の大幅な減少、それに伴う需要量の減少から、往時84社(県全体)であった組合員数も現在では42社へと半減してしまいました。

現在、当業界におけるほとんどの会社が、労働に見合う利益を得ることができないという非常に厳しい状況におかれています。

業界の今後の動向は？

今後、厳しい状況が続くことは否めず、加えて燃料の高騰、電気料金の値上げなど更なる試練は避けられません。ただ、現在進行中の『中部横断自動車道』、また、郡内地区におけるリニア新幹線の工事は一段落したものの、これから国中以南(南アルプスを貫通するトンネル等)の工事が予定される『リニア新幹線』には需要量の増加が期待でき、こちらは明るい材料と言えます。

また、当業界では、他の骨材業界とも連携しあいながら、適正な価格の安定を図り、私どもが採取、供給している砂利骨材が、建設・土木事業においてはなくてはならない根幹をなすものであるということ、そして、特に釜無川のような天井川での砂利採取は、地域住民を災害から守るという大きな役割を担っているということなどに対する使命感を持って、今後、事業に取り組んでいきたいと考えています。



砂利選別プラント